

2017/12/4-12/10 デボーションガイド 「ユースマナ」 詩篇 27:4 私は一つのことを主に願った。 私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。	2017/12/4(月) 黙示録 11 章 今日も黙示録ですね！難しい箇所ですが、今は分からないことも心に留めていきましょう。 3 節から登場する 2 人が何を指しているのかは諸説ありますが、証人としての使命を与えられている教会を指していると考えられています。 教会は絶えず聖霊の力に満たされて、証人としての使命を果たす存在です。そして神様はその使命を果たすために特別な力を与えてくださいます。この世は教会を何度も滅ぼそうとしてきましたが、迫害があるたびに神様は教会を救い出し、力を与えて再び立ち上がらせてくださいました。 神様が教会を愛していること、そして教会を通して御心をこの地に表そうとされていることに心を留めよう。今私たちが見ていることよりも、遥かに大きなことが教会に託されていることを覚えましょう！	2017/12/5 (火) 黙示録 12 章 出産するひとりの女は、神の民教会のことを言っているよ。そして、大きな赤い竜はサタンのことだよ。天において、天使ミカエル率いる天の軍勢と巨大な竜の手下たちとの戦いがおき、竜は勝つことが出来なく、天から地に落とされたんだね。サタンは執拗に女(教会)と男の子(キリスト)を追いかけて全世界を惑わしてきたんだね。でもここでサタンは自分の時間が短いと知っているとも聖書にははっきりと書かれているよ！ 誰もが敗北と思える十字架によってイエス様が勝利して下さったから、私達の戦いは勝利が約束されているんだね！！ 私達の中にある、赦せない思い、愛せない思い、辛い思いにも平和の神様が勝利と解決を与えてくれる！期待して祈り続けよう！！	2017/12/6(水) 黙示録 13 章 海から上ってきた一匹の獣は反キリスト、地から上ってきたもう一匹の獣は偽預言者をあらわす。竜はこの獣に力を与える。獣はこの世に敵意の種を蒔き、世界中で争いを起こさせる。そして、偶像礼拝を強いる。大きい姿から、豊かにみえ、人々はそこに惹かれ、憧れる。しかし、神様は反キリストを必ずさばかれる。 私たちは、いろいろなものを見ていろいろなことを聞く。持っているもので自分を誇りたくなる。周りの人と同じようでないとな不安になる。 主よ！ただあなたを見てあなたを知ることをお願いします！今日の日も 助けてくださるあなたとともにいられますように！
2017/12/7(木) 黙示録 14:1-13 ・子羊がシオンの山の上に シオンの山の上の小羊の幻は、戦場の只中で存続する教会を励まし慰めてくれる。 イエス様は私たちといつも共にいて、御自分に属する人々を決して見捨てない。たとえ戦いが激しくなっても、たとえ神様の敵とその手下が襲い掛かってこようとも、たとえ神様に属する人々がおびえてしまっても、神様が私たちの傍におられるのだから、心配無用である。悪魔が攻撃してくるとき、パウロは「もしも神様が私たちの側についてくださっているならば、一体誰が私たちに敵対できるのでしょうか」(ローマ 8:31)と言っている。 神様に絶対的な信頼を置いているだろうか？ 神様に自分を預ける者は、どんなに激しい苦しみからも守られる！信じよう！！	2017/12/8(金) 黙示録 14:14-20 私達がよく知っている事は、キリストを信じる事によって救われ、永遠の命を得る事です。 そして肉体的な死はあるけれどその後天に昇る祝福を知っています。しかし信じなければ得られないものです！多分私達の周りの人はその事を知らない人ですね！神様は私達にその事を知らせなさいと言っています！自分が今その事を知らせるとしたら誰に何をしますか？ 言葉もちろん、愛を表して伝えて行く事も出来ます！ キリストの再来の日に自分が人生でしてきた事を振り返る時に誠実に生きてきたと言えるものとなろう！ 今日もキリストに信頼して出て行こう！	2017/12/9(土) 黙示録 15 章 ここから最後の神の怒りが示されて行く。主の激しい怒りによる御使いが持ってくる災害、さばきを先導する勝利者の歌、そして天にあるあかしの幕屋の聖所が開く様子。 聖所から出てくる御使いは光に包まれていた。その聖所の様子は、神様の怒りが動物的なものと本質が違い、きよく厳粛であることを現しているんだ。 神様の栄光は私たちにとってとても恐れ多く、そして愛に満ちているものであることを覚えよう。私たちの心は今日その神様の愛と共にあるだろうか、思い巡らそう。	2017/12/10(日) マタイ 1:1-17 「アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図」で始まるこの箇所は、イエス様が旧約聖書で約束されていた救い主であることを伝えるために書かれています。この系図に書かれている人たちの中には悪い王様や、人を騙した人もいて、「罪人の系図」とも呼べるものです。 しかし、そんな罪人の系図の中から、「すべての人を照らすまことの光」としてイエス様がお生まれになりました。イエス様が罪人を救いに導くためにお生まれになったのは、2000 年以上も前のことだけど、確かに、今日を生きるみんなのためでもあります。 ヨハネ 1:4-5「この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。」 イエス様だけがまことの光です！と宣言をして1日を始めましょう！

